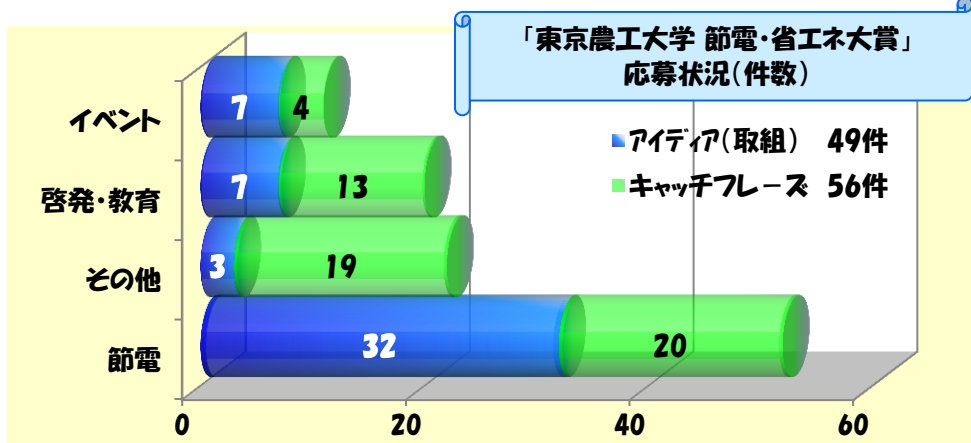


節電・省エネの取組(アイデア)及びキャッチフレーズに多くの応募がありました。



厳選なる審査の結果、次の3件が選出され、2月3日学長より表彰されました。おめでとうございます。



＜今後の展開＞
提案していただいた大賞の内容を実行するために費用の確保・必要個数調査などを進めています。



大賞

優秀賞

キャッチフレーズ

企画名	スイッチ式電源プラグを用いた待機消費電力の削減
提案者	生物システム応用科学府(BASE) AABチーム 代表:高橋郁也 メンバー:野口稜 小野優輔 榎出亮 魚澤孝文 山口翔希 渡辺 史
概要	・待機電力削減をスイッチ式電源プラグを活用することにより推進する。 ・全学生に理解を促すために研究室ドア等にポスターを掲示し理解を深め習慣化する。
期待効果	PC及びプリンターをシャットダウン後スイッチ式電源プラグをOFFにすることで年間16MWh/y(試算)の節電となり、電気料金を削減できる。 <1台あたりの待機電力 例> パソコン:0.41W モニター:0.38W プリンター:0.62W

企画名	保温力を電気からテクノロジーに
提案者	生物システム応用科学府(BASE) 食料エネルギーシステム科学専攻 尾崎 博史
概要	・研究室にある電気ポットは、一日保温しておくだけで電気代20円(1.0kWh)を使用している。 ・保温方法を魔法瓶ポットに変える。
期待効果	農工大の電気ポット所有数を300個と想定した場合CO2削減量は100kg/日 37,000kg/年となる。(試算)

企画名	パソコンもいっしょに休憩させよう
提案者	機械システム工学科 原 昌平
概要	学生や教職員が各々使用するパソコンのスリープまでの時間を5分などの短い時間に設定する。
期待効果	スリープの時間を短く設定することで節電効果が期待できる。 *スリープメモリに作業内容を一時的に保存し低消費電力状態で待機する機能

応募作品は全件「温室効果ガス対策小委員」で検討し、次の作品が最終選考に進出しました。

今回入選しなかった企画・キャッチフレーズにも、優秀な提言が多く見受けられました。

